

1.指揮者として、最近客演したオリンピック都市の感想

(アトランタ、モントリオール、トリノ、ロンドン、バルセロナ)

2.住んでいる人が、愛着をもって語れるような「オリンピック」とは？バルセロナモデル

国際的なイベントであると同時に、住民の20年後、30年後を見据えたオリンピック
海外からの視点を意識するあまり、住民を置き去りにすることがない

(資料)

*バルセロナビデオ上映

一住民にとってオリンピックは世界とつながりながら、自分たちの文化に自信を高める契機に
＝観光客激増

＝工業都市からリゾートも楽しめる都会へ

＝若い才能の発掘 (オープニングセレモニーを演出した才能集団 フーラ デル バウス)

オリンピックで築かれた土台をもとに

＝「スマートシティ」という名のもとに、インターネットアクセスポイントの充実。バルセロナ名建築を地元建築家が解説し、観光客が自分のペースで町を見て回れるアプリを作成。

3.東京オリンピックに向けての3つの提案

1. 2015年11月 東京都交響楽団 創立50周年ヨーロッパツアー

訪問地 ベルリン、ヘルシンキ、ストックホルム、アムステルダム、パリ、ウィーンなど
プログラム 細川俊夫 福島津波で子供を流されてしまった母親の哀しみを歌った鎮魂歌 (独唱は世界的なメゾソプラノの藤村実穂子)

都響は1964年の東京オリンピック文化政策の一環として1965年創立。半世紀を経て、今や日本が誇る第一級のオーケストラ。来年のヨーロッパの首都を回るツアーは、東京の文化水準の高さ、多様さを国内外にアピールする絶好の機会。

⇒「東京文化発信プロジェクト」として、東京を海外にアピールするロゴの可能性

(資料)

*都響創設の経緯について

*バルセロナ響、オリンピック開催の1992年にオリンピック公式使節として
日本をツアー ポスター

2 音楽、美術、バレエ、舞踏など、ジャンルを越えたコラボレーション

一藤田嗣治の舞台美術によるチャイコフスキーのバレエ。

⇒上野の発信力

3 被災地と一緒に作り上げる「みんなのオリンピック」

被災地には、例えば優秀な子供の音楽団体がいくつも存在する、福島ジュニアオーケストラ、郡山ジュニアオーケストラ、その他、少年合唱団、吹奏楽団体など。そこで「児童オーケストラフェスティバル」の可能性 Tokyo 日本の子供の活動と、海外の子供の活動を結ぶこと。

起き上がりこぼし (福島産の民芸品) に世界各国の人が絵付けをするプロジェクト

都響創設の経緯について

1961（昭和36）年

- ◆東龍太郎（あずま りょうたろう）都知事が、交響楽団創設の研究を東京都教育委員会へ下命

「よい交響楽団を持つことは、都市の文化水準の高いことを示すもの。東京都も世界における第一級の都市であり、それにふさわしい文化的水準が必要。」

1963（昭和38）年

- ◆創設に当たっての基本方針を決定（11月）
 - ・1964 東京オリンピックの記念文化事業として、芸術文化のより一層の振興を図るため、交響楽団の設立を意義づける
 - ・1965（昭和40）年に発足させる

1964（昭和39）年

- ◆都議会厚生文教委員会において都響創設承認（9月）
- ◆東京オリンピック開催（10月）



1965（昭和40）年 都響創設（2月財団法人発足・4月結団式）

【創設の目的】

<1964（昭和39）年9月4日都議会厚生文教委員会における説明>

- ①都民により音楽を提供し、高い文化を東京に建設
- ②青少年により音楽を極めて低廉な入場料で聞いてもらう
- ③首都の国際親善のため、欧米都市のように「程度の高いいりっぱな楽団」をもつ

<初代常任理事 諸井三郎氏（作曲家）の話>

- ①地方公共団体が援助するシステムにより、日本の交響楽団の質を向上
- ②学校教育へ積極的に寄与し、青少年のためのコンサートを開催
- ③発表の場に恵まれない日本人作曲家の作品を率先して披露